全国大会に行こう

平成十一年度　六年　女児

「全国大会に行こう」これが、私達若浜小学校バレースポーツ少年団の目標だった。今年の夏休み、私達は県の予選を勝ちぬいて、ついにライオンカップ全国大会に出場することができた。

六年生になり、私はレフトのポジションの練習をした。キャプテンとして、コーチ、監督に怒られることも多くなった。試合で勝ったときも中身が悪いとまた怒られ、とてもいやな気分になった。いっしょうけんめいやっているのに、何で怒られるのかわからなかった。

ある日、石神二小に練習試合をしに行きそこの監督に、「コーチ、監督からいっぱい怒られなさい。怒られるのは、その指導者がおまえたちに上手になってもらいたいと思っているからだ。」と言われた。「本当にそうなのかな」と私はその言葉を理解することができなかった。でも、毎日練習を重ねていくうちに怒られることにも慣れ、コーチ、監督は、私達を上手にしたいんだなあと思えるようになってきた。

いくつかの大会で優勝するようになり、私達は「全国大会に行こう」という、大きな大きな目標を持った。それからの練習はこれまでにも増して厳しくなった。やめてやると思うこともあったが、目標を思い出し、またがんばろうという思いで練習を続けてきた。

県大会前日、心臓がドッキン、ドッキンと響きなかなか寝ることができなかった。緊張で体が動かなくなりそうだった。さすがに地区代表だけあってどのチームも強かった。私達は何とか勝ち進み、決勝までたどりついた。相手は山形で一位の南沼原だった。コートがライトアップされ、緊張は頂点に達した。この試合に勝った一チームだけが全国大会への出場権を手に入れる。この試合だけは絶対に負けられない。チームのみんなも、監督もコーチも同じ気持ちだった。

一セット目、緊張しているせいか思うように体が動かない。タイムの時、コーチ、監督から「気をゆるめるな。」と言われ、気持ちを引きしめ一セットを取った。

ニセット目は、一セット目と違って声も出てきた。アタックもバシバシ入り、体も自然と動くようになってきた。みんなも乗ってきた。これならいける。そして、セットポ

イント。美香さんのサーブがチャンスボールで返ってきた。必ず決めてやる。私はカ一杯アタックした。

ついにやった。私達は、自分たちが持っている力を全て出し切って優勝することができた。ずっと、ずっと目標にしてきた「全国大会」へ行くことができる。みんなの目に涙があふれていた。

全国のレベルは高く、一勝もすることはできなかったが、全国大会に行けたということは、私にとってとても貴重な経験だ。私はまだまだバレーを続けていこうと思う。これからは、どんな試合でも悔いを残さず、全力を出し切れるプレーヤーになるようにがんばっていきたい。